

## これからの進め方について（意見メモ）

**御厨委員長**

- ・関係者のヒアリングが足りない。特に広域の団体（道路ユーザー、経済団体、環境団体、沿道自治体）等からのヒアリングを適宜行っていきたい。
- ・これからは提言に対する行政の取り組み方針について確認し、実施の報告を受け、取り組みへの評価をする。
- ・P I 外環協議会が立ち上がるので、これからは他のP I プロセスと同時進行で本委員会が動いてゆくことになるだろう。
- ・これからは必要性、計画の具体的内容に関する議論が始まるので、情報共有、意見把握がしっかりと出来ているのかを評価、助言をし、第二次提言をしていく。

**石田委員**

- ・これからは、有識者委員会が他のP I を先導していく意味合いがあると思う。
- ・外環に限った議論をしていくが、国全体のシステムへ波及することも避けられない。これからはそういうことも含めて議論するか？
- ・行政間（国、都、区市）の連携が重要。それぞれの役割が違うので、色々な議論をした方がよい。（土俵の議論）
- ・市民の生の話を聞くことが大切だが、それをどのような方法で実行するのか
- ・有識者委員会のメンバーについて検討が必要。
- ・ドキュメントの整理が必要。

### **中条委員**

- ・ 第一次提言であげた課題を粛々とやっていく。
- ・ 委員会メンバーは今のままでいいのではないかと思う。

### **越澤委員**

- ・ 具体の事業なので、委員会は現実のすすみ具合に合わせることになる。
- ・ 現在の5人のスタイルでどの段階までこの委員会を続けていくのかを検討する必要がある。
- ・ P I 外環協議会が設立されたので、夏頃までに様子を見ながら、今後何をするのか議論すべき。委員会の作業を限定していくべきである。事務局（行政）からの提案があっても良い。
- ・ P I 外環協議会の運営を見守り、委員会は「指導」という姿勢は取らない。

### **森田委員**

- ・ 関係者ヒアリングを粛々と続けていくこと。特に地元と行政の間に立つ専門家のヒアリングをしてみたい。
- ・ 行政の取り組みをチェックし、情報を共有し客観化していくプロセスについて助言をしていかなければならない。
- ・ この委員会で必要性及び計画内容の審議を行うのか、どうか。早く方針を決めた方がよい。